

柏崎市児童生徒の食育推進プラン

I はじめに

これまで学校給食は、栄養バランスのとれた食事を提供し、児童生徒の体位の向上、家庭の食生活改善等に大きな役割を果たしてきました。

一方、食生活を取り巻く社会環境等が大きく変化し、個人のライフスタイルや価値観の多様化に伴い、個々人の食行動も変化している。こうした中で外食産業の拡大による食の外部化、子供が1人で食事をする「孤食」等により、食を通して親子がふれあう機会が減少し子供の食に対する知識や関心の低下、食生活の乱れの進行が懸念される。そして食行動の多様化や誤った情報を背景に、カルシウム不足、脂肪の過剰摂取、痩せ願望によるダイエットなどの偏った栄養摂取、肥満症、栄養不良等の生活習慣病の増加や若年化など、食に起因する新たな健康課題の増加がみられます。そのため、児童生徒が生涯にわたって健康で充実した生活を送るための基礎を培う食教育の重要性が高まっています。

柏崎市教育委員会では、このような現状に鑑みて、小・中学校教職員および医師、歯科医師等の関係者の協力を得ながら「柏崎市児童生徒の食育推進プラン」を作成しました。このプランを受け、柏崎市の全小・中学校において教育活動を見直し、意図的計画的に食指導が行われるよう期待しています。

また、家庭や地域、関係機関との連携を深めながらプランの共有化、意識啓発を行い、全市的な食教育の気運を高めていく予定です。

II 基本的な考え方

1 基本方針

国や県の食に関する指導の位置づけや動向を的確に把握しながら、義務教育課程段階での食の指導＝食育はどうあるべきか、柏崎市の基本的な考え方をまとめ、方向付けをして学校での食教育を推進していくために（仮称）「柏崎市児童・生徒の食育推進プラン（案）」の骨格を、関係教職員（学校長、給食主任、家庭科・保健体育教諭、養護教諭）、学校栄養職員、教育委員会職員においてまとめる。

これにより柏崎市の「食教育の現状と課題」、「子どもを取り巻く食環境等」を一緒に協議し、食育プランを一緒に作りこむ中で、「食」への思いや考えを共有し、より充実した児童生徒への食育を進めていくものとする。

＊国・県の動向一別紙資料のとおり（国や県の動きをとらえ、柏崎市の方針をつくり、児童生徒の食育を進めていく。）

- ・ プラン対象範囲
：あくまでも義務教育課程段階での食育とする。
- ・ プランの策定方法
：指導ポイントの絞込み、議論のたたき台として「教職員の食の現状についての意見」「学校栄養職員ができること」「食に関する子ども、保護者アンケート結果」等を参考にする。

2 目標及び実施計画の設定

ヘルスプロモーションの理念に基づいて、MIDORI 理論にそって、現場の学校関係者の声や児童生徒・その保護者のアンケート等をもとに現状分析し、平成25年度に達成すべき具体的な目標を設定した。

3 プランの位置付けと期間及び評価 計画策定・実施の概要（年度別見通し）

- ・ 平成15、16年度の取組
：平成15年度は、学校内の教職員によるグループワークにより食育推進プランの骨格を1年かけて検討し、プラン案の骨格をまとめた。
：平成16年度は、外部委員の学校関係者（学校医や歯科医、学校薬剤師、保護者、地域の関係者等子どもを取り巻く関係機関）とプランの素案作成者により「柏崎市児童生徒の食育推進プラン策定委員会」を立ち上げ、課題を共有し、意見聴聞を行いプランの再検討し、プランの充実を図り、完成させた。また、具体的対応策も検討した。
- ・ 平成17年度以降の取組み
 - ① 導き出された課題を、主体者である児童・生徒や保護者に向けて、問題提起し具体的対策については主体的な取組みができるよう支援していく。
 - ② 行政機関としては、乳幼児期から成人まで視野に入れた対策を講じるための足がかりとなることを目指して、ここで確認された課題を問題提起し、一緒に検討していく。

III 計画策定までの背景と経緯

柏崎市においては、平成13年度教育方針の「21世紀に生きる心豊かでたくましい子どもの育成をめざして」の中で食事の健康に及ぼす重大さに鑑み「食の指導に関する研究校」を指定して、食の教育の在り方を研究するとして、同年より瑞穂中学校を中心に健康体力づくり推進校として学校栄養職員を増員配置し、モデル的に食教育を実施し他校に広めているところです。また、教職員の研修の中でも、地産地消活用した食教育の在り方、総合学習における食教育の取組み等研修を重ねているところです。

国や文部科学省から各種通知により、子ども等への食指導の重要性が叫ばれていることを受けて、柏崎市でも従前から教諭・学校栄養職員が個別に対応しているが、学校間、あるいは教職員間、学校栄養職員間で取組み、意識に温度差があること並びに柏崎市は、学校給食の提供を主に共同調理場方式で実施しており、調理場併設校のみ学校栄養職員が配置されているので、学校栄養職員と各受配校教諭との密接な連携が求められている。

こうした現状から学校単位等で効果的な食育を実施していくためには、柏崎市としての具体的な食指導の柱を確認するなど基本的な考え方をまとめ、方向付けをする必要があるのではないかという声があがってきた。そこで「食育を柏崎市でうまく進めるにはどうしたらよいか一緒に考えよう。」「どのように連携をとったら食育がうまく進むか一緒に考えよう。」を合言葉に、学校栄養職員と各教科の先生方が柏崎市の食教育の現状と課題、子どもをとりまく食環境等を一緒に協議する中で、「食」、「学校給食」、「食指導」への思いや考えを共有化し、食育推進プランの骨格を一緒に作りこむことによって、より充実した食育の取り組みを目指したものです。

- * 検討委員—学校関係者（学校長、給食主任、家庭科・保健体育教諭、養護教諭）、
市教育委員会（学校給食係・学事保健係・指導班）
- * 柏崎市の学校における食教育の方向性を、教育現場の多職種での検討により明確にする
- * 柏崎市の学校における食教育の関係者間での連携を推進する